

アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (コ02)

目 的

東南アジア、西アジア及びその周辺地域における文化遺産の保存活用に関する調査研究の実施並びに当該地域で行われる文化遺産の保存修復事業への協力を通じて、我が国が有する文化遺産保護に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成 果

1. カンボジア アンコール・タネイ寺院遺跡保存整備事業に対する支援等
 - ア) 東門の修復に向けた散乱石材の調査及び排水経路の検討 (2019 (令和元) 年5月19日～6月29日)、修復工事の実施に関するアンコール・シエムレアプ地域保存整備機構との事前協議及び準備作業 (2019 (令和元) 年8月10日～16日)、東門の修復工事の実施、屋根及び壁体の解体、3Dスキャニングによる現状記録 (2019 (令和元) 年9月7日～11月15日)、東門の基礎構造の調査、基礎盛土の土質試験 (2019 (令和元) 年12月1日～21日)、基礎外装の解体、基礎盛土の土質試験及び基礎石材の強度試験 (2020 (令和2) 年2月25日～3月19日)
 - イ) アンコール遺跡及びプレアヴィヒア寺院遺跡保存国際調整委員会技術会合への参加及び事業報告 (2019 (令和元) 年6月11日～12日、9月18日、12月10日～11日)
 - ウ) 国際研究会・シンポジウム「メコンがつなぐ文化多様性－東南アジア文化遺産研究の現在－」(早稲田大学文化財総合調査研究所)における報告 (2020 (令和2) 年1月22日～23日)
 2. イラン 文化遺産手工芸観光庁及び文化遺産観光研究所との協力事業
 - 博物館の環境管理に関する専門家研修の実施 (2019 (令和元) 年11月25日～29日)
 3. アルメニア エチミアジン大聖堂博物館及び歴史文化遺産科学研究センターとの協力事業
- 論文 染織文化遺産に関する保存修復研修の実施 (2019 (令和元) 年10月7日～17日)

・VAR Elif Berna: "Towards the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple: Restoration of the East Gate" Mekong cultural diversity beyond borders - Proceedings for the International Seminar & Symposium on Southeast Asian cultural heritage studies today -, Institute for Cultural Heritage, Waseda University, 20.3

発表 間舎裕生ほか: 「アルメニア共和国における染織文化財保護の国際協力」『文化財保存修復学会誌』63 20.3

・MARTINEZ Alejandro et al.: "Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei Temple: Conservation of the East Gate" The 32nd Technical Session of ICC-Angkor 19.6.11

・VAR Elif Berna et al.: "Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei: Restoration Works on the East Gate" The 33rd Technical Session of ICC-Angkor 19.12.10

刊行物 友田正彦「東南アジアにおける東京文化財研究所の文化遺産国際協力」国際研究会・シンポジウム「メコンがつなぐ文化多様性－東南アジア文化遺産研究の現在－」 20.1.24

・『アルメニアにおける染織文化遺産保存修復ワークショップ2017-2019事業報告』東京文化財研究所 19.12.1

・"Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor-Progress Report of 2019" APSARA/TNRICP, 20.3

・『大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係』東京文化財研究所 20.3

研究組織

・『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 令和元年度成果報告書』東京文化財研究所 20.3

○金井健、友田正彦、安倍雅史、マルティネス・アレハンドロ(9月まで)、間舎裕生、浅田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ(8月から)、岡崎未来(以上、文化遺産国際協力センター)、佐野千絵、小峰幸夫(以上、保存科学研究センター)、石井美恵、山田大樹(以上、客員研究員)、呂俊民(前客員研究員)、大石岳史、桑野玲子、大坪正英(以上、東京大学)

10/10 (木)	9:00～ 12:00	理論	溶剤の使い方と極性について	無極性有機溶剤:炭化水素とシロキサン。テ ィーズ相関図による溶解プロセスの解説。安 全性と有毒性。水処理前の一時的な表面保護、 マクロ・エマルジョン、パーティクル・エマ ルジョン(ピッカリング・エマルジョン)
	13:00～ 17:00	実技	様々な種類のエマルジョン作成。繊細な表面を水処理するための一時的な表面保護。	

参加者 午前の部：56名、午後の部：21名

文化遺産国際協力センター

世界遺産研究協議会「戦略的 OUV 選択論」(④コ01の一部として実施)

コ01プロジェクトで行っている諸研究のうち、世界遺産に関する制度と最新の動向についての情報を提供するため、平成30年度に引き続き研究協議会を開催し、外部研究者を含む5名の発表を行った。今回は、世界遺産委員会で行われた議論等についての報告に加え、世界遺産の保全に関して様々な資産で課題となっている遺産影響評価について、各地での取り組み等の報告を通じて、その実際と今後の方向性について知る機会を提供した。

日 時：2019(令和元)年9月20日(金) 13:00～20:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：103名

発表者及び題名：・境野飛鳥(東京文化財研究所)

「第43回世界遺産委員会の報告」

・西和彦(東京文化財研究所)

「HIA参考指針、および「価値の属性」についての考え方」

・三好玄(大阪府教育庁)

「百舌鳥・古市古墳群における緩衝地帯の保全—都市部に所在する資産としての取組み—」

・正田実知彦(福岡県)

「世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群遺産影響評価運用マニュアルについて」

・佐藤嘉広(岩手県)「「平泉」における遺産影響評価の事例と課題」

全体討論

懇談会・ミニプレゼンテーション：

・中田健一(大田市教育委員会)

「世界遺産登録のインパクトと保存活用—石見銀山の事例—」

・松島吉信(富山県)

「防災遺産・立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組み」

文化遺産国際協力センター

国際シンポジウム「アラビア半島の考古学—オーストリア隊と日本隊の最新の成果から—」 (コ02の一部として実施)

ウィーン大学のマルタ・ルチアニ教授を招聘し、アラビア半島の考古学に関する国際シンポジウムを開催した。ルチアニ教授は発掘中のクレイヤ遺跡について基調講演を行った。クレイヤ遺跡はアラビア半島北西部に位置する大遺跡で、旧約聖書に登場するメディアン族の遺跡と言われ、近年、ウィーン大学によって発掘調査が行われている。ほかにも、アラブ・イスラーム学院、東京文化財研究所、早稲田大学、金沢大学に所属する研究者が、アラビア半島地域における考古学や歴史、文化に関する調査・研究について報告を行った。

日時：2020（令和2）年1月31日（金） 13：00～17：00

会場：東京文化財研究所 会議室

主催：東京文化財研究所

金沢大学

国際文化資源学研究センター課題ユニット「遊牧民と古代文明」

超然プロジェクト「古代文明の学際研究の世界的拠点形成」

科学研究費基盤研究S「中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究」

参加者：26名

講演：・マルタ・ルチアニ（ウィーン大学）

「Novel Perspectives on the Archaeology of Desert Settlements in North Arabia」

・藤井純夫（金沢大学）

「Transition in Burial Practice and the Formation Process of Tribal Society in NW Arabia: New Insight from Archaeological Investigations at Wadi Muharraq and Wadi Ghubai Sites」

・安倍雅史（東京文化財研究所）

「Reconsidering the Date of Riffa Type Burial Mounds in Early Dilmun: New Radiocarbon Data from Wadi al Sail, Bahrain」

・長谷川奏（早稲田大学）

「Viewpoints on the Reconstruction of the Early Islamic Daily Life at the Hijaz Region: Archaeological Research at al-Hawra', Red Sea Coast, Saudi Arabia」

・徳永里砂（アラブ・イスラーム学院）

「Distant and Local Inland Networks in al-Hijaz to the Early Islamic Period: Epigraphic Surveys in the Hinterland of al-Hawra'」

文化遺産国際協力センター

国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるために—歴史教育を通じた戦後イラクの復興への挑戦—」 （CO2の一部として実施）

シュメール地方（南イラク）のメソポタミア文明遺産を現地の教員や若者がどのように認識しているのか、また彼らがどのような教育支援を期待しているのかといった声に耳を傾け、戦後イラクの復興における歴史遺産の保護や文化資源を活用した人材育成への日本人の関わり方を論じた。

日時：2019（平成31）年4月13日（土） 10：00～17：30

会場：東京文化財研究所 セミナー室

主催：特定非営利活動法人メソポタミア考古学教育研究所（JIEAM）、東京文化財研究所

後援：外務省、駐日イラク共和国大使館

「日・イラク外交関係樹立80周年記念」関連イベント

参加者：約80名

講演：・小泉龍人（JIAEM）「メソポタミア文明遺産の現状と課題」

・安倍雅史（東京文化財研究所）「東京文化財研究所による西アジア文化遺産保護支援事業」

・小口裕通（国士舘大学イラク古代文化研究所）「日本の研究機関によるイラク調査の意義と成果」

・増渕麻里耶（京都造形芸術大学芸術学部）「文化財保護のための教育と人材育成の重要性」

・ナイーム・アルシュウェイリー（ズィー・カール大学人間教育学部）「教員から見た南イラクの教育現場の実状と課題」

・イマード・ダワード（ズィー・カール大学人間教育学部）「ズィー・カール大学の学生たちの教育支援に対する要望」

・榊原智之（JIAEM、(株)エル・コーエイ）「考古学教育支援の在り方について」

国際シンポジウム「博物館とその周辺のエジプト学研究の最前線」(CO2の一部として実施)

2019(令和元)年9月1日～7日の第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019との連動企画として開催した国際シンポジウム。日本の研究者、学生、一般を対象に、世界の博物館・美術館のコレクション研究を中心とする美術史、また考古学や保存修復学を中心とするエジプト学の研究の最前線について、日本国内及び海外の代表的な専門家が講演を行った。

日 時：2019(令和元)年9月10日(火) 09:30～16:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

主 催：東京文化財研究所、CIPEG(国際博物館会議エジプト学国際委員会)日本委員会、金沢大学新学術創成研究機構、古代オリエント博物館、中部大学

参加者：41名

プログラム：・Sakuji Yoshimura (Higashi Nippon International University / Waseda University)

「Conserving the Second Boat of Khufu」

・Kyoko Yamahana (Tokai University)

「The First Papyrus Restoration Project in Japan: Educating Students to Become Papyrus Conservators」

・Hourig Sourouzian (The Colossi of Memnon and Amenhotep III Temple Project)

「An Open Air Museum for Monumental Sculpture within the Temple of Amenhotep III to Keep in situ the Splendid Heritage of the Great King」

・Regine Schultz (The Roemer and Pelizaeus Museum, Hildesheim)

「From Pi-Ramesse to Hermopolis and from Egypt to Hildesheim and Back」

・Vincent Rondt (Musée du Louvre, Paris)

「Not Everybody Knows that Mariette's Serapeum Dig Represent Some 10 per cent of the Louvre Museum Collection of Ancient Egyptian Objects」

・Tine Bagh (Ny Carlsberg Glyptotek, Copenhagen)

「Amenemhat III: His 'Labyrinth' and Beyond」

・Betsy Bryan (The Johns Hopkins University, Baltimore)

「The King and the Image of God: Joining a Statue of Amenhotep III in London and Cairo」

・Mohamed Gamal Rashed (Damietta University, Damietta)

「Unpublished Statues from the Karnak Cachette at the Egyptian Museum: Tracing the Genealogy of Some Priestly Families」

・Melinda Hartwig (Michael C. Carlos Museum, Emory University, Atlanta)

「Researching the Sensusret Collection」

・Tomoaki Nakano (Chubu University)

「The Egyptian Collection at Kyoto University for the Next Hundred Years」

・Gabriele Pieke (Reiss-Engelhorn-Museen, Mannheim)

「Egypt in Manheim: An Old Collection with New Visions」

・Christian Loeben (Museum August Kestner, Hannover)

「Hanover: The Second Largest Amarna Collection in Germany – Past – Present – Future」

・Christian Greco (Museo Egizio, Turin)

「Digital Revolution and Humanism」